

在校生・卒業生・保護者・教職員

進路通信 2015/04 後期

北海道釧路湖陵高等学校進路指導部

◆特集 新学期が始まり 3 週間 連休をどう過ごす？◆

新学期が始まり、3 週間が経ちました。先日 4 月 2 5 日（土）は授業参観や P T A 総会、学級懇談や 1 年生は進路説明会などが実施されました。多くの保護者の方に来校していただきました。ありがとうございました。

1 年生の進路説明会では、生徒もそうですが、保護者の皆様方にも熱心に耳を傾けていただき、ありがとうございました。ご家庭で進路のお話をするきっかけになればと思います。

さて、どの学年の生徒も新学期が始まってちょうどこれくらい経つと、最初に考えていたことと、現実とのギャップから、勉強以外のことにのみ目を向けたり、逆にうまく勉強を進められない自分を過剰に責めたりする生徒もできます。しかし、逆に現在の自分のあり方に何の疑問も持たない（持たないようにしている）生徒がいることも事実かと思ひます。特に、スマートフォンなどの機器を使用している時間が長いという課題を課題としてすら認識していない生徒は、本来持つべき「行き詰まり感」すら持っていないという点において、一番危ういといえるでしょう。

行き詰まる感覚がある時こそ、すべきことを整理して、できることから実行に移そうとしてみるべきです。それには、この連休という期間は最適です。

■「計画」や「見通し」をつけるときのコツ

- ①達成したい目標を決める。
- ②取り組みたい内容を考えて、箇条書きにする。
- ③箇条書き例
・ 4 S T E P の p ○ ～ p △ ・ 学校の宿題プリント 2 枚 など
- ④計画したことをどこでやるか、時間表に記入してみる。
- ⑤取り組んだら、「印をつける」など、終わったことを自分で確認できるようにする。
そして「自己評価」してみる。

☆ 自己評価の方法

「仕上がり・理解・楽しさ」の 3 つを軸に、下の自己評価基準をもとに主観的に評価してみましょう。「楽しさ」は、勉強して「楽しかった・やってよかった・なるほどと思った・コツをつかんだ」などの思いで、特に主観的に評価してよいです。

「S＝仕上げた○	理解できた◎ or ○	楽しさ◎ or ○」
「A＝仕上げた○	理解できた○ or △	楽しさ○ or △」
「B＝仕上げた○ or △	理解できた△ or ×	楽しさ△ or ×」
「C＝仕上げた×	理解できた×	楽しさ×」

⑥これがコツの中のコツ → 「ふりかえり」

- ・連休最終日、計画と実際の達成度合いとを比較して、考えたことを書いてみる。
- ・「よかった」「よくできた」「あまりできなかった」「半分しかできなかった」などと単純化しないことが一番大事。それは、計画表とおわった印をみれば他人でも書くことができる。他人でも書くことのできるものならば、あまり書く意味がないです。書く意味は自分で作るんです。足りなかったもの、うまくいかなかった原因、うまくできた理由などを、単純化せずに入れられるだろうか。制限時間は 1 5 分です。

◆特集 医療体験活動報告会 旧 2 年生の医進グループが発表◆

3 月 22 日（日）に旭川医科大学が主催して「医療体験活動報告会」が実施されました。これは、旭川医科大学による「ふるさと医療人育成の取り組み」の一環として行われています。参加者は、大学の先生・大学生・病院等で医療に携わっている方・高校生・高校教員です。

本校では医学部医学科に入学することのできる学力の育成を目指しつつ、それだけではなく、大学の先生に来ていただいて講話等をしていただく「メディカル講座」や、さまざまな「体験学習」を通して、倫理観を含む確かな職業観をもった医療人に近づくための取り組みなども実施しています。

「メディカル講座」は医学部医学科を目指す人のみを対象とするのではなく、看護師や薬剤師などの医療職を目指す生徒に幅広く門戸を開放して実施しています。

さて、旧 2 年生で、医学部医学科を目指す医進グループは、自分たちが医師を目指すにあたって、「調べてみたいことや知りたいことは何だろう？」という素朴な疑問をグループワークによって出し合うことから、昨年はスタートしました。メディカル講座やさまざまな体験活動に参加する中で疑問に感じたこと、調べてみたいことなどを、高校生の視点で出し合い、いくつかのグループに分かれて、分担して調べたり、まとめたりしてきました。

その結果をまとめて、今回の「医療体験活動報告会」で「地域医療について」という題で全体発表しました。午前中は口演（スライドを使った発表）です。100 人以上の人を前に各校の代表者が発表します。

◆ 3 月 22 日の時程

10：00 ～ 12：00 高校生医療体験活動報告会
13：00 ～ 15：00 高校生地域医療討論会

↓ 湖陵高校の発表の様子



昨年度は 8 名の医進グループが活動していました。そのうち、旧 2 年生の 2 名が代表して札幌で発表してくれました。なお、札幌での発表に向かう前日、本校で旧 1 年生の医学科進学希望者向けに同内容の発表を行いました。1 2 名ほどの参加がありましたが、終了後、発表者に対して質問を投げかける生徒もいるなど、有意義な時間となりました。札幌での発表は堂々としたもので、発表姿勢、発表内容ともに、参加していた医療関係の方や高校教員などからお褒めの言葉をいただきました。発表内容について、発表者である 2 人はもちろんのこと、他の医進メンバーの意見も参考にしながら、直前まで手直しを加えていたこともよかったのではないかと思います。

第 6 回高校生による医療体験活動報告会 口演発表（1 校あたり 7 分）

- ① 小樽潮陵高校「安楽死について」
- ② 北見北斗高校「高齢化による医療問題」
- ③ 札幌西高校「札幌市に救急病院を新設するにあたって」
- ④ 岩見沢東高校「医療現場における精神状態が健康に与える影響」
- ⑤ 釧路湖陵高校「地域医療について」
- ⑥ 遺愛女子高校「函館地区における地域医療の現状について」
- ⑦ 室蘭栄高校「2 0 年後の医療を考える」
- ⑧ 旭川東高校「住民と医師のかかわり」
- ⑨ 札幌旭丘高校「高大病連携病院実習 勤医協中央病院」
- ⑩ 函館中部高校

午後の「地域医療討論会」では K J 法という手法を用いて志を同じくする他校生とディスカッションをしました。初対面同士でしたが、活発に発言し合う姿が見られました。また、右の写真にあるような、ポスターによる発表もありました。

湖陵でも札幌でも体験を通した学びを、志望を実現する行動へとつなげることが大切です。



■GWの計画を考える（ ）年（ ）組（ ）番（ ）

①G・Wに達成したい目標を決めます。

②各教科で取り組みたい（取り組まなければならない）ことを箇条書きにして整理します。

【教科名】

	S・A・B・C
	S・A・B・C
	S・A・B・C

【教科名】

	S・A・B・C
	S・A・B・C
	S・A・B・C

【教科名】

	S・A・B・C
	S・A・B・C
	S・A・B・C

【教科名】

	S・A・B・C
	S・A・B・C

【教科名】

	S・A・B・C
	S・A・B・C

☆欄は作りましたが、全教科せよという意味ではありません。個人の作戦にゆだねます。

③計画したことをどこでやるか、時間表に記入してみる。（登校日も含む）

	2(土)	3(日)	4(月)	5(火)	6(水)	7(木)	8(金)	9(土)	10(日)	備考
6:00										
7:00										
8:00										
9:00										
10:00										
11:00										
12:00										
13:00										
14:00										
15:00										
16:00										
17:00										
18:00										
19:00										
20:00										
21:00										
22:00										
23:00										
0:00										

■ふりかえり